

# 2024 ズバリ! 的中



# 漢文

## 北海道大学

### 『送薛存義之任序』の現代語訳を問う箇所が的中

#### 入試問題

前期日程  
四 問二

#### 河合塾

大学受験科・高3  
古典サブテキスト  
漢文編 50頁 三 B3

四 次の文章は、零陵県の候補であった薛存義が他の任地に赴くを送るにあたって、官吏はどうかについて柳宗元が述べた文である。これを読んで設問に答えよ。なお、設問の都合で送りかたを省いたところがある。

凡吏於土者、若知其職乎。蓋民之役、非以役民而已也。凡民之食於土者、出其什一備乎吏使。司平於我也。今我受其直、怠其事者、天下皆然。豈惟怠之、又從而盜之、向使備一夫於家、受若直、若事、又盜若貨、則必甚怒而黜罰之矣。以今天下多類此、而民莫敢肆其怒、而黜罰、何哉。勢不也。勢不、同而理同。如吾民何。有達於理者、得不恐而畏乎。存義、假令零陵二年矣。蚤作而夜思、勤力而勞心、訟者平賦者均、老弱無懷、詐暴憎。其為不虛取直也。矣。其知恐而畏也。審矣。

(柳宗元「送薛存義之任序」)

問二 傍線部イ「豈惟怠之、又從而盜之」を、(2)の内容をそれぞれ具体的に明らかにして現代語訳せよ。

3  
豈惟怠之、又從而盜之。

どうしてただその仕事を怠るだけであらうか、いやそればかりではなく、またその上に「入民が納める税の中から」盗み取るのである。(柳宗元「送薛存義之任序」)